

<実践報告>

中学校社会科における「歴史的な見方・考え方」を高める授業の構想（2）
—「総合的な学習の時間」との連携を中心に—

武井正樹 信州大学教育学部長野中学校
矢澤拓真 信州大学教育学部長野中学校
百田美希 信州大学教育学部長野中学校
志村佳名子 信州大学学術研究院教育学系
篠崎正典 信州大学学術研究院教育学系

Creating Lessons for Enhancing “Historical Perspectives”
in Junior High School Social Studies (2) :
Collaboration between Social Studies and Integrated Studies

TAKEI Masaki: Nagano Junior High School Attached to Faculty of Education,
Shinshu University

YAZAWA Takuma: Nagano Junior High School Attached to Faculty of Education,
Shinshu University

MOMOTA Miki: Nagano Junior High School Attached to Faculty of Education,
Shinshu University

SHIMURA Kanako: Institute of Education, Shinshu University

SHINOZAKI Masanori: Institute of Education, Shinshu University

| | |
|---------------|--|
| 研究の目的 | 生徒の「歴史的な見方・考え方」を高める上で、社会科の学びと「総合的な学習の時間」の学びとの連携が有効であるかを検討すること。 |
| キーワード | 中学校社会科 歴史的な見方・考え方 総合的な学習の時間 |
| 実践の目的 | 中学校社会科歴史的分野の授業改善 |
| 実践者名 | 第一著者と同じ |
| 対象者 | 信州大学教育学部附属長野中学校 3 年次（40 名） |
| 実践期間 | 2019 年 5 月 |
| 実践研究の方法と経過 | ①社会科と「総合的な学習の時間」の学習内容との関連の考察, ②社会科と「総合的な学習の時間」との連携を意識した単元の構想と実践, ③②における生徒の「歴史的な見方・考え方」の高まりの検証. |
| 実践から得られた知見・提言 | 社会科で培われる知識や技能に加え, 「総合」をはじめとする他の教科や領域の学びや生徒自身の経験も視野に入れることで, 生徒の「歴史的な見方・考え方」の更なる伸長が望めること. |

1. はじめに—研究目的と方法

1.1 研究目的

新学習指導要領『中学校学習指導要領解説 社会編』, 以下, 『新要領』)において, 「歴史」(以下, 「歴史」)の学習指導では, 「歴史的な見方・考え方」を働かせて課題解決を行うことが重視された。これを受けて, 「歴史的な見方・考え方」の定義の検討(原田 2017)(大友 2018), 「歴史的な見方・考え方」を働かせるための方法とその働きを可視化する方法の検討(草原 2017), 「歴史的な見方・考え方」を働かせることを盛り込んだ「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業作り(佐伯 2019)が進められている。同時に, 「歴史的な見方・考え方」を鍛えることの重要性も雑誌『社会科教育』等で指摘されている。

こうした研究状況を踏まえ, 筆者らは, 生徒の「歴史的な見方・考え方」を高めるための授業のあり方を検討した(矢澤他 2019)。その結果, 学習カードへの単元を通して考えたことの記入, ルーブリックを用いた評価, 学習前の生徒の実態把握により, 生徒の学習の深まりや変容を確認しながら指導を行うことが, 「歴史的な見方・考え方」を高める上で有効であることが明らかになった。しかしながら, その後, 実践を行う中で, 生徒が他の教科や領域での学びを活用して学習に取り組む姿を確認し, 「歴史的な見方・考え方」を高める上で, 他の教科や領域の学習経験が与える影響を考察する必要が出てきた。

そこで本実践では, 他の教科や領域の中から「総合的な学習の時間」(以下, 「総合」)での学びとの連携に着目した。社会科と「総合」は教育目的が異なるため峻別が必要であるが, 両者の学習内容や学習活動の相互補完の可能性も従来から指摘されてきたことが理由である(小西 2000 など)。本実践の対象校でも, 「歴史」と「総合」は, 教育目標は異なるが学習内容の関連があるため, 互いの連携により学習効果の向上が期待できると考える。

以上を踏まえ, 本実践では, 生徒の「歴史的な見方・考え方」を高める上での「歴史」の学びと「総合」の学びとの連携の有効性を検討することを目的とする。

1.2 研究方法

まず, 本実践で用いる「歴史的な見方・考え方」は, (矢澤他 2019)で示した表1の定義による。これは, 『新要領』の内容を踏まえて「歴史学習において考察したり, 選択・判断したりする際の視点や方法(考え方)として用いられるもの」と捉え, 「歴史」の目標(2)(3)(文部科学省 2017)を「見方」「考え方」の点から整理してまとめたものである。

表1 「歴史的な見方・考え方」の定義

| 歴史的な見方の基本 | 歴史的な考え方の基本 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・時期, 年代などの時系列に関わる視点・展開, 変化, 継続など諸事象の推移に関わる視点・類似, 差異, 特色など諸事象の比較に関わる視点・背景, 原因, 結果, 影響など事象相互のつながりに関わる視点 | <ul style="list-style-type: none">・歴史に関わる事象の意味や意義, 伝統と文化の特色や, 事象相互の関連を多面的・多角的に考察する(A)・歴史に見られる課題を把握して, 学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する(B) |

次に、本実践の手続きは次の3つである。第一は、「歴史」と「総合」の学習内容との関わりを考察すること。第二は、「総合」との連携を意識した「歴史」の単元を構想すること。第三は、構想した「歴史」の単元を実践し、学習過程と学習後における生徒の「歴史的な見方・考え方」の高まりを「総合」での学びとの関わりを踏まえて考察すること。

2. 「歴史」と「総合」における学習内容の関わり

2.1 「総合的な学習の時間」における社会科「歴史」と関わる学習内容の位置

「総合」では、自分を取り巻く自然や社会、人とのつながりを見出し、関わりを深めていく中で、様々な課題を自分の問題としてとらえ、問いの追究を通して生きる意味や目的を自覚していく生徒の育成を目指している。

この具体化のため、「総合」では、学年ごとに大きな題材を設定し、「出会い～問い～挑戦～希望」からなるテーマに沿って追究を進め、自らの問いの解決を目指して生き方を探る活動を組織する。第1学年は50時間で「ベターライフⅠ」「ベターライフⅡ」「13歳の節目」、第2学年は70時間で「14歳の問い」「ヒロシマからのメッセージ」、第3学年は70時間で「ヒロシマからのメッセージ」「自分探しの旅」の題材に取り組む。この中で特に「歴史」と関わりが深い題材が、表2に示す「ヒロシマからのメッセージ」である。

題材「ヒロシマからのメッセージ」は、第2学年の11月から第3学年の6月に計45時間かけて行い、「自分探しの旅」に接続する。この題材の活動内容は、「戦争で起こった事実を理解し、戦争が招く悲劇の現実を知り、平和を希求する人々の活動を知ること、広島訪問により明らかにしようとする自分の問いを見いだす」こと、「広島を訪れ、平和を願い活動する人々の姿に触れ、平和を希求する心を育み、今後の自分の生き方について考える」ことの2つからなる。生徒たちは、この2つの活動における学びを踏まえつつ、題材「自分探しの旅」で3年間の学びを振り返り、自分自身の今後の在り方等を考察して「総合」の学習を終えることになる。

表2 題材「ヒロシマからのメッセージ」基本構想

| | 育てようとする 資質・能力及び 態度 | 学習方法 | 自分自身 | | 他者や社会 |
|-----------------------|--|------------------------------------|---|--------------------------------------|--------------------------------------|
| | | 個人の問いを設定し、調査活動や体験活動を通して追究することができる。 | 人の生き方に触れて、自分の生活や生き方に生かそうとすることができる。 | | 人とのかかわりから学んだことを生かして生活しようとするすることができる。 |
| 2 . 3 手 主 | 題材名と活動内容（時間数、活動期間） ※HWはヒューマンウィークを表す | | 題材目標 | | |
| | | | 学習方法に関すること | 自分自身に関すること | 他者や社会に関する こと |
| | ○「ヒロシマからのメッセージ」(25時間、11～3月) 戦争の事実と悲劇、平和を希求する人々の活動を知り、広島訪問で明らかにする自分の問いを見いだす。 | | 戦争にかかわる、VTR視聴、講演会等から、平和や戦争にかかわる情報を収集する。 | 自己の生き方を見直し、悲劇を繰り返さないための考えをレポート等にとめる。 | 整理した情報について、よりよい情報を見いだすために友と意見交換をする。 |
| 主 | ○「ヒロシマからのメッセージ」(20時間、4～6月) 広島を訪れ、平和を願い活動する人々の姿に触れ、平和を希求する心を育み、今後の自分の生き方を考える。 | | 戦争体験者の講演や体験学習を行い、戦争と平和に関する考えをまとめる。 | 自分にできる平和活動を考え、主体的に実践しようとする。 | 平和を願い活動する人々に触れ、自己の問いに照らして考えを深める。 |

2.2 題材「ヒロシマからのメッセージ」の学習内容

題材「ヒロシマからのメッセージ」の展開は表3である。この題材は、「出会い」「問い」「挑戦」「希望」の段階で構成される。「出会い」では、学習のねらいと意義を考えるとともに、VTR視聴により戦争と平和についての問題意識を醸成する。「問い」では、戦争に関わるVTR視聴と戦争体験者へのインタビューを通して、太平洋戦争と長野市の状況の理解を深め、広島での体験学習への問いを形成する。「挑戦」では、「出会い」「問い」の学習で得た情報や疑問の意見交換、原爆、日中戦争、平和活動に関わるVTRの視聴を踏まえて広島での体験学習を実施する。「希望」では、広島での体験学習と「出会い」から「挑戦」までの学習を振り返り、今後の自分自身の生き方で大切にしたいことをまとめる。

表3 題材「ヒロシマからのメッセージ」の展開

| 階 | ○学習活動 ・ 予想される生徒の反応 | ◇教師の指導・援助 | 月 |
|----------------------------|--|--|-----|
| 出 会 い 4 時 間 | <p>○「ヒロシマからのメッセージ」の学習のねらいや意義を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の戦争と平和の歴史を知り、今後の自分の生き方を考えたい。 先輩たちは平和と戦争について考え、自分の問いを持って広島へ修学旅行に行った。私も60年前にあったことをしっかり学びたい。 <p>○VTR「ヒロシマ・母たちの祈り」「夏服の少女たち」を視聴する。</p> <ul style="list-style-type: none"> お父さんやお母さんが、娘の服を大切に作る姿をみて悲しくなった。 この悲劇を繰り返さないために、地球上から危険な原子爆弾を撲滅させなければいけないと思う。 <p>○VTR「はだしのゲン」を視聴し、戦争と平和について感じたことと本題材への期待をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一発の原爆で多くの人が亡くなったり、その後も苦しむ人がいる戦争は悲惨だ。今は平和な世の中だけど、戦争についてもっと知りたい。 身近に戦争を経験した人がいたら話を聞いてみたい。 | <p>◇「戦争」について知っていることを出し合い整理する。</p> <p>◇先輩の学習発表会を想起するよう促す。</p> <p>◇VTRを視聴し、感想を記入するように促す。</p> <p>◇亡くなった子の形見を残す親の気持ちを考え、戦争の悲惨さに気付けるようにする。</p> <p>◇VTR視聴で原爆の様子を伝え、これから戦争と平和について考えることを説明する。</p> <p>◇戦争で悲しい思いをした人が近くにいないか問う。</p> | 11月 |
| 問 い 6 時 間 | <p>○VTR「太平洋戦争映像記録史」を視聴する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの犠牲が出た太平洋戦争があったから、今の日本の平和があると思う。 太平洋戦争がなぜ起こり、どのように戦争が進み、どれほどの被害が出たのかが分かった。 <p>○自分史を語り継ぐ会の方の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦争を生き抜いてきた方の生きようとする気持ちは、すごいと思う。 今の時代とは、比べものにならないくらい大変で辛かったと思う。人を殺す戦争は絶対にやってはいけない。 <p>○長野市の戦争被害について感じたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 武器作りのために寺の鐘も出した。そこまでした戦争とは何だろう。 <p>○戦争体験者にインタビューし、聞いたことをクラスで伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 爆弾で長野市が焼けたことにびっくりした。 私のおじいさんは、戦争で亡くなり、おばあさんは子どもを亡くしたことを母から聞いた。家族を失った悲しみは想像できない。 <p>○仮の「ヒロシマへの問い」を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 僕は「悲惨な戦争を繰り返さないために自分にできることは何か」を問いとした。 広島で平和のために活動する方への取材や戦争や原爆が残したものを実際に見てみたい。 | <p>◇戦時中の長野市の写真を提示し空襲が大都市だけでなく地方の都市にも及んだと伝える。</p> <p>◇被害者家族はどんな気持ちだったか考えるよう促す。</p> <p>◇自分の考えを伝えるために事前に質問事項を書き出す。</p> <p>◇身近な人へのインタビューをするように促す。</p> <p>◇不足している情報は、図書館やインターネットを活用するように伝える。</p> <p>◇学習を振り返り、「ヒロシマ」への仮の問いを立てるように促す。</p> | 12月 |

| | | | |
|------------------------|--|---|-------------------------------|
| 挑 戦 16 時 間 | <p>○これまでのワークシートを参照し、新たに知ったことや疑問に思ったことを友と伝え合い、さらに調査したいことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・唯一の被爆国として、戦争や原子爆弾についてもっと知るべきだ。 ・身近で戦争が起きたことは知らなかった。もっと知る必要がある。 <p>○他のグループと同グループで情報や意見を交換し、平和とは何かまとめ直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原爆投下の理由、広島被害、太平洋戦争が起こった理由、広島の復興、核兵器が今もある理由などを調べてみたい。 <p>○VTR「あのととき原爆投下は止められた」を視聴し、日本とアメリカの意識の違いに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は戦争の被害者だと思っていたけど、アメリカの立場で考えると戦争を始めた日本にも大きな責任があったのではないかな。 <p>○VTR「日中戦争」を視聴する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本軍が中国の人まで殺していたことが分かり、ショックを受けた。 <p>○VTR「祈るように語り続けたい」を視聴し、平和な世の中を願って取り組む吉永小百合さんの活動について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉永さんは、悲惨な戦争がない平和な世の中になるように、原爆や戦争の悲惨さを伝える原爆詩の朗読活動を行っていることが分かった。 <p>(問いの設定、講座別学習の準備)</p> <p>○広島での体験学習の講座内容を知り、講座を選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術の講座では、広島平和記念公園にある様々な彫刻について説明をもらえるようだ。それぞれの彫刻の意味を聞きたい。 <p>○「ヒロシマへの問い」を更新する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争をしないことが平和だと思っていたけど、他のグループの話を聞いて他国を全ての面で理解することが真の平和だと考えが変わった。 ・平和を願って短歌を読んでいる方取材し、「短歌によって平和を訴える作者のメッセージとは」を新たな問いとしよう。 <p>○講座に向けた事前体験の学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島で短歌を読んでいる人や作品について調べ、作者の思いを考えたい。また、講師の先生が僕たちに伝えたいことも聞いてみたい。 <p>○広島での体験学習を行う(修学旅行)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和への思いが込められた短歌だということが分かった。 | <p>◇VTRやワークシートを参考にし、問い(仮)を解決するために新たに知ったことや疑問をまとめるように促す。</p> <p>◇調査対象を明確し、グループや個人で追究させる。</p> <p>◇調べたことを模造紙にまとめ、クラスで情報交換するよう促す。</p> <p>◇原爆投下を含めたアメリカと日本の考えの違いを視点に視聴するよう促す。</p> <p>◇日本人の行為も考えながら視聴する。</p> <p>◇平和な世の中にするために、自分にできることを実施している人がいることを伝える。</p> <p>◇問いを解決するために、必要な事前調査を行ったり、講師の先生への質問をまとめたりするように促す。</p> <p>◇これまでの追究に広島で感じたことや考えたことを加えて問いを解決できるようにする。</p> <p>◇講師の先生からの質問の返答などから、さらに学習を進め、体験学習の準備をする。</p> <p>◇平和記念公園等で講座別習を行う。</p> | <p>1月</p> <p>2月</p> <p>3月</p> |
| 希 望 12 時 間 | <p>○広島での体験学習を振り返り、これからの自分のあり方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短歌を読む活動をする作者から、平和の尊さを訴えることの大切さを学んだ。そこから、「真の平和」に向けた自分の生き方を考えたい。 <p>○ワークシートや体験学習の資料をもとにレポートを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までは広島での体験学習しか知らなかったが、平和のために自分ができることをやる大切さを実感した。悲惨さを次の世代に伝えたり、平和な世界のためにもっと戦争を学習していきたいと思った。 <p>○「未来の私へのメッセージ」として今後大切にすることをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命の大切さや戦争の悲惨さを訴える講師の先生の生き方に共感した。将来私も命を守る職業に就いて平和な社会を実現させたい。 ・ここで学んだことを友に発信し、自分ができる活動をしていきたい。 | <p>◇講座別学習を振り返ってまとめ、講師の先生方にお礼の手紙を書くよう促す。</p> <p>◇「14歳の問い」で作成したレポートの書き方を活用する友の様子を伝え、レポートをまとめるように促す。</p> <p>◇レポートを互いに発表し、今後の見通しを持つことができるようにする。</p> | <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> |

以上のように、この題材では、生徒が太平洋戦争の背景、経緯、被害等について、体験学習を通して実感を持って理解し、今後の自分の生き方へと繋がる学習が組織されている。

3. 「歴史」と「総合」との連携による単元開発

3.1 単元開発と実践の意図

本単元は、「2」で述べた「総合」で学習した知識・技能との連携を踏まえて構想した。

「総合」の題材「ヒロシマからのメッセージ」は、日本の戦争と平和の歴史を知り、今後の自分の生き方を考えることがねらいである。「総合」で学んだ知識や経験を生かし、日米開戦までの世界における日本の立ち位置や終戦に至る動きを「歴史的な見方・考え方」を働かせて各自が多面的・多角的に捉え直すことで、より深い学びに繋がるように組織した。

3.2 単元の構想

A. 単元名・学年（時間）：「第二次世界大戦と日本」・3年（9時間扱い）

B. 単元の目標

- ①近代の歴史的事象に関する理解を深め、それに関わる世界の動きを理解し、その知識を身につけている。（知識・技能）
- ②近代の歴史的事象に関わる世界の動きから課題を見出し、歴史の流れと時代の特徴を多面的・多角的に考察し、公正に判断している。（思考・判断・表現）
- ③近代の歴史的事象に関わる資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。（思考・判断・表現）
- ④世界恐慌を乗り切ろうとした欧米諸国の政策や第二次大戦による惨禍など、近代の歴史的事象に関心を持ち、単元を貫く学習問題を意欲的に追究している。（主体的に学習に取り組む態度）

C. 単元展開

表4 単元「第二次世界大戦と日本」の単元展開

| 学習内容 | ◇学習活動 | ○評価規準 | 時間 | 「総合」との関連 |
|--------------------------------------|--|---|---------|----------------------------------|
| 1 単元を貫く学習問題を設定し、単元の見通しをもつ。 | ◇「総合的な学習の時間」を想起させ、単元を貫く学習問題を設定する。 日米開戦に至るきっかけとなった一番の出来事は何だろう。 | ④日米開戦に至る前の経緯について、関心を高めようとしている。 | 1 | 戦争体験者へのインタビュー、体験学習の経験を想起させる。 |
| 2 世界恐慌から太平洋戦争までの世界と日本の動きについて調べ、まとめる。 | ◇世界恐慌に対する世界各国の対応を確認し、日本への影響をまとめる。 ◇世界恐慌を乗り切るための日本の政策をまとめる。 ◇植民地を獲得することに踏み切った日本とそれに反発する中国との戦争についてまとめる。 ◇第二次世界大戦勃発の原因、日本の動きをまとめる。 ◇日本がアメリカとの戦争に至った経緯をまとめる。 | ①世界恐慌から日米開戦、それに関わる世界の動きを理解し、知識を身につけようとしている。 | 5 | VTR「太平洋戦争映像記録史」や「日中戦争」の学習を想起させる。 |
| 3 単元の学習問題について個人で予想を立て、追究をする。 | ◇これまでの学習から単元の学習問題に関する予想を立てる。 ◇予想に基づき、資料を収集し、自分が予想をした出来事を詳細に捉える。 ◇多面的に捉えた出来事を発表するために学習カードにまとめる。 | ②日米開戦の背景を多面的・多角的に考察し、公正に判断しようとしている。 | 2 | VTR「あのとき原爆投下は止められた」や体験学習を想起させる。 |
| 4 単元の学習問題について追究したことを発表する。 | ◇他者の考えを聞き、追究した自己の結果と他者の考えから学んだことを踏まえ再構成する。 ◇課題に対する自分の考えを記入し、発表する。 | ③日米開戦のきっかけを追究・考察した結果をまとめたり、説明しようとしている。 | 1 本時 | 「広島への問い」「これからの自分のあり方」を振り返る。 |

3.3 本時の展開

- A. 主眼：日米開戦に至る一番のきっかけを追究する場面で、友の意見との共通点や相違点に着目し、意見交換しながら自分の考えを捉え直すことを通して、日本が国力の差があるアメリカと戦争するに至ったきっかけとなる一番の出来事はどこにあったのか、考察した結果と他者の考えから学んだことを再構成することができる。
- B. 本時の評価規準：考察した結果と他者の考えから学んだことを再構成している。
- C. 展開

表5 単元「第二次世界大戦と日本」(第9時)の展開

| 段階 | 学習活動 | 予想される生徒の反応 | ◇教師の指導・援助 | 時間 | 備考 |
|------|---------------------------|--|---|-----|-------|
| 問題把握 | 1 本時の学習の見通しをもつ。 | 学習問題：日米開戦に至るきっかけとなった一番の出来事は何だろうか。 ア「満州事変」がきっかけになる。国連は満州からの撤兵を求めており、アメリカの主張も、中国にいるアメリカ人の権利を侵害する可能性があると考えており、日米の溝を深めたと考えたからだ。 イ「日中戦争」を一番のきっかけと考えた。なぜなら、アメリカは中国が日本に対抗するために、大量の武器を提供しており、日本とアメリカの溝が深まった決定的な出来事であるからだ。 ウ「ABCD包囲陣」だと考える。日本の石油輸入先1位のアメリカからの輸入が止まることはアメリカとの溝が深まる一番の原因だ。 | ◇学習問題を確認し、前時に選り出した日米開戦に至る一番のきっかけとなる出来事と、その根拠を日米開戦までのつながりを説明しながら各自で確認する学習活動を位置付ける。 ◇ イ、ウのような、選り出した出来事が異なる意見を全体に位置付け、学習課題を設定する。 | 5分 | 学習カード |
| | 2 自分の考えを根拠を示しながら友と意見交換する。 | 学習課題：経済面に着目し、発表者との共通点や相違点に着目して意見交換をしよう。 エ「ABCD包囲陣」だと考える。戦争継続のために石油は欠かすことができない。日本にとってアメリカの制裁は戦争を停滞させる行為である。国力の違いはあるが、アメリカをけん制しておく必要があるから、日米開戦へのきっかけになった出来事だと考える。 オ「満州事変」がきっかけだと考える。満州事変は、満州権益の確保を狙ったものであり、軍部の台頭が中国侵略を推し進めた。日本の中国への進出が日米対立の原因となったのは「五・一五事件」ではないか。確かに「満州事変」が事のはじまりになりそうだが、「五・一五事件」で政党内閣が終ったことで、外交での話し合いができなくなり、戦争をすることでしか解決できない状況になったと考える。 キ「五・一五事件」は国内的には重要な事件であるが、アメリカとの関係で見たら、直接的に日米開戦にかかわる事件ではないのではないか。 ク「満州事変」は、当時の国内の問題を解決するためには大切な出来事であり、また、国際社会から孤立するきっかけとなった事件でもある。 ケ「ABCD包囲陣」だと思っていたが、国内事情から考えても、国際的な問題として考えても「満州事変」が日米開戦のきっかけになっていたそうだと。 コ「満州事変」がきっかけだと考える。日本の経済状況を回復させるために、中国における日本の権益を取り戻すことが必要であったし、軍部は中国侵略を進めることで政治的な発言力を強めていった。そうした日本の動きを、国際社会が認めなかったから、日本は次第に、国内的にも国際的にも事情が似通ったファシズム諸国に近づき、この動きをよしとしないアメリカと対立が深まっていったと考える。 サ 考えを再構成して、ポスターにまとめよう。 | ◇ 学習カードに記入したことを発表し、全体で意見交換する場を設ける。 ◇ 同じ出来事でも、理由付けが異なる意見があることを確認し、意見交換を促す。 ◇ 選んだ出来事を根拠をもって説明できるよう促す。 ◇ 生徒の発言を基に、出来事を選んだ理由や事象とのつながりを整理する。 ◇ 発表意見を提示し、矢印や線でつないで事象の関連を捉えやすくする。 ◇ 発表意見に新しい視点があった場合は、学習カードに書き加えるよう促す。 ◇ 意見を再構成する際、選んだ出来事を出発点として事象の因果と相関を明確にするよう助言する。 ◇ 全体での意見交換から分かったことを自分で整理し、学習カードに記入する学習活動を位置付ける。 ◇ 記入が停滞する生徒には、板書を基に事象を整理して共に考える。 ◇ サのような発言を全体に位置付け、次時の学習につなげていくようにする。 | 35分 | |
| まとめ | 3 課題に対する自分の考えを記入し、発表する。 | | | 10分 | |

4. 生徒の「歴史的な見方・考え方」への「総合」の学びの影響

4.1 本時における生徒の「歴史的な見方・考え方」の高まり

本時（表 5）で生徒の「歴史的な見方・考え方」の高まりが見られたのは、前時までに結論付けた出来事と資料（①世界恐慌、②国連脱退、③日清戦争、日露戦争、④南方進出、⑤日中戦争、⑥昭和恐慌、⑦ABCD 包囲陣、⑧日米交渉決裂、⑨国連脱退、⑩日独伊三国同盟、日ソ中立条約、⑪満州事変、⑫抗日民族統一戦線、⑬二十一か条の要求、⑭大政翼賛会、⑮国家総動員法、⑯ワシントン会議）との関連付けの根拠を述べる場面である。

一番の出来事を日中戦争と考えた Y 生は、グループでの意見交換で次のように発言した。

- K: 私は ABCD 包囲陣が戦争に至る一番のきっかけだったと考えます。それは、資料の①～⑦、⑩、⑬、⑭、⑯の資料から、アメリカがなぜ日本にそのような包囲陣を組んだのか、その背景として日本軍の行った中国への非人道的行為が関係してくると思ったからです。
- O: 私は、ABCD 包囲陣を選択するに当たって、⑬、⑭の資料が根拠になると考えます。これによって中国からの資源確保が可能であり、また国民が戦争に一致団結し向かう仕組みが整えられたことがアメリカが日本に制裁をかけることにつながったと考えます。
- W: 私は③、④、⑪～⑭の資料から ABCD 包囲陣を選択しました。日清、日露戦争後の日本は、領土を拡大させ、南方に進出するなかで、進出を良しとしないアメリカと交渉が決裂します。その中で起きた ABCD 包囲陣はまさに、反米感情を国民に高めるきっかけになったと思います。
- K: O さんや W さんの話を聞いて、もしかしたら、日中戦争がはじまったときから、太平洋戦争は始まっていたのではないかなと思うようになってきました。
- Y: 私はこれまで日中戦争が一番のきっかけだと考えていました。しかし、K 君の話の中に、アメリカが中国を支援していたという話を聞き、日中戦争、二十一か条の要求、世界恐慌などつながっていく中で、元をたどると日中戦争かもしれませんが、ABCD 包囲陣が最終的な戦争を引き起こすきっかけとなったと思います。

ここで Y 生は、資料②⑧⑪を根拠とした。これは、国際連合の脱退で孤立した日本が領土拡大の足がかりとして日中戦争を引き起こし、それが太平洋戦争に推移するにあたり、最も直接的な戦争であると捉えたことが主な理由である。

しかし、友との意見交換の中で、中国への非人道的行為（資料⑤）の中に中国とアメリカとの結び付き、日本がアメリカから多くの資源を輸入したこと（資料⑦）、南方進出には日本の資源不足を補う目的が大きく関わっている（資料④）ことが分かってきた。

その結果、戦争で領土を拡大させ、戦争を起こす日本にアメリカが反対して太平洋戦争が起きたという、行われた戦争を時系列のみで判断していた Y 生が、その事象の背景にある「日本の資源の乏しさ」に目を向け、日本の資源獲得の手段を細かく時系列で追うことで、資源を確保したい日本とそれに反対するアメリカとの対立関係が見えてきたと言える。ゆえに、本時のまとめとして、Y 生が記入した学習カードには、以下の記述が見られた。

私は、ABCD 包囲陣が太平洋戦争を起こした一番の出来事として考えます。資料②～⑦、⑪～⑯から、元々資源の少ない日本は、資源の獲得のために中国や韓国に進出し戦争によって多くの犠牲を出します。さらに南方へ進出しようとした際に、中国との結び付きのあったアメリカから批判を受け、ABCD 包囲陣をしかれることとなります。これ以上アメリカと対立したくない日本は、日米での交渉を進めていきますが決裂し、その結果、資源を失うという、日本にとって最も苦しい状況となり戦争に至ったと考えます。

このまとめから Y 生は、日本が世界情勢の中で孤立し、侵略を繰り返しながら資源を獲得していく過程に目を向けていることが分かる。またその過程の中で、アメリカを中心と

する諸外国の批判を受け、日本とアメリカとの主張の違いが日米の溝を深め、最終的に資源獲得の手段を失った日本が戦争に踏み切ったという日米の対立要因も明確になったといえる。このことから Y 生は、時間的な推移のほかに、事象と事象とを結ぶ因果関係に気が付き、資源を中心とした考察ができていることが分かる。

この背景には、「総合」の題材「ヒロシマからのメッセージ」の中で、Y 生が「平和とは何か」という問いをもちながら学習を進めてきたことにあると考える。Y 生は戦争を経験した世代の人々が考える平和について追究を深めていく中で、必ずしも日本が被害者という立場だけでなく加害者という立場で、諸外国に対して甚大な被害を与えていたことを学んだ。また、「大東亜共栄圏」を訴えながら東南アジアに進出した日本軍の意図やその中で使われた大東亜の平和という言葉の意味は、日本にとって列強を排除し、資源を獲得するための都合のよい解釈で用いられたものであるという認識に至っている。その上で、アメリカがとった ABCD 包囲陣が、当時の日本の考える平和という価値観にとって都合の悪い状況を作り出し、アメリカとの対立を深める最大の要因として挙げたと考えられる。

4.2 単元を通した生徒の「歴史的な見方・考え方」の高まり

単元全体（表 4）を通した学びを振り返る場面でも、次のような生徒の「歴史的な見方・考え方」の高まりが見られた。S 生は、以下のような記述をしている。

私はこの学習を通して、広島での平和学習で学んできたことが決して人ごとではなく、実際に自分達の祖父母や曾祖父母の時代に起きた、つい最近の出来事であることを再認識しました。起きてしまったことをやり直すことはできませんが、日本が開戦に至るまでの出来事を整理し、日本や諸外国との考え方の違いを比較していく中で、戦争を回避できる方法もあったのではと考えさせられました。それができれば、今現在も残る多くの戦争に関する問題が出ることなく、近隣諸国の国々とも友好的な付き合いができていたのだろうと考えます。過去の事実を受け止め、私達の求める平和とは何か、さらに考えていきたいと思います。

S 生は、「総合」の題材「ヒロシマからのメッセージ」の中において、中国残留孤児について興味をもって追究をしてきた。残留孤児が生まれた経過や現代も残る問題などを学習する中で、日本の満州開拓には長野県の人々が多く関わっている事実を知る。S 生は本単元の学習が進む中で、一冊の本（飯島春光著『ひいおばあちゃんは中国にお墓をつくった』かもがわ出版 2015）を持ち寄りクラスに紹介をした。これは、日米開戦までの日本の動きや日本と諸外国との関係の溝が深まっていく事実を社会科で学習していく中で、「総合」で追究してきた中国残留孤児の学習を重ね、時代の流れに翻弄されていく満州移民の人々に思いを馳せようとしている姿であると言える。同時に、上記の振り返りの「今現在も残る多くの戦争に関する問題が出ることなく、近隣諸国の国々とも友好的な付き合いができていたのだろう」という記述は、日米開戦という事実の認知だけで終わることなく、戦争を身近に起きたことと捉え、自分達に何ができるかを思考する姿であると考えられる。

このように S 生は、社会科の学習の中で、「総合」の追究の成果を持ち寄り、自分事として社会的事象を捉えることで、本単元の開発の意図で示した事象を「歴史的な見方・考え方」を働かせながら多面的・多角的に捉え直すことで、より深い学びになったと言える。

5. おわりに

本実践より、「総合」との連携を踏まえて社会科「歴史」の単元を構想して実践した結果、生徒の学習過程と学習後の様子に「歴史的な見方・考え方」の高まりが見られた。具体的には、日米開戦に至るまでの推移を政治的な視点で考察していた Y 生が、当時の日本が訴えてきた平和の価値に視点を置き、現代の平和の価値観と比較をしながら改めて資料を関連付けて考察し、学習問題の結論を導きだしたこと。日米開戦という概念的知識だけで終わることなく、「総合」の中で深く学習してきた残留孤児に関わる知識を重ね合わせながら、今もなお家族との再会を待ちわびる人々の思いや戦争によって生まれた諸課題を踏まえ、日米戦争について再考しようとする S 生の姿がそれである。

こうした結果は、生徒が豊かな「歴史的な見方・考え方」で歴史的な事象を考察する際に、事前に体験等を通した実感的な学びの中で形成された知識や技能があることで更なる深まりが見られたことを意味する。これにより、「歴史的な見方・考え方」を高める上で、社会科で培われる知識や技能に加え、「総合」をはじめとする他の教科や領域の学びや生徒自身の経験も視野に入れることで、更なる伸長が望めることが示唆された。

以上を踏まえると、今後の研究課題として、生徒の「総合」をはじめとする他の教科や領域の学びや経験を把握して社会科の授業に活かす方法を考察することが挙げられる。本実践の成果を踏まえ、引き続き「歴史的な見方・考え方」を高めるための授業づくりについて模索していきたい。

文献

- 原田智仁, 2017, 歴史的な見方・考え方の再考を一主体的・対話的で深い学びを実現するために一, 日本教材文化研究財団研究紀要, 47, pp.68-73
- 小西正雄, 2000, 社会科と「総合的な学習の時間」との関係をめぐって, 社会認識教育学研究, 15, pp.1-10
- 草原和博他, 2017, 歴史的な見方・考え方の働きはいかに可視化できるか, 広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部, 66, pp.41-50
- 文部科学省, 2017, 中学校学習指導要領解説 社会編
- 大友秀明, 2018, 歴史の授業と教材ー見方・考え方について一, 埼玉大学紀要 教育学部, 67 (1), pp.143-149
- 佐伯綱義, 2019, 歴史的な見方・考え方を働かせ, 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりー「明治維新」の授業を通して, 社会と人間, 13, pp.15-22
- 坂上康俊, 戸波江二, 矢ヶ崎典隆他, 2016, 新編 新しい社会 歴史, 東京書籍 社会科教育, 699, 2017
- 矢澤拓真, 武井正樹, 小池克昌, 篠崎正典, 2019, 中学校社会科における「歴史的な見方・考え方」を高める授業の構想ー単元「江戸時代のなぞにせまる」の開発と実践を通して一, 教育実践研究, 17, pp.51-60

(2019年9月27日 受付)